

2019 年度通常（第 2 回）理事会議事録

日時：2019 年 9 月 7 日（土） 11:00～16:30

場所：夢の島マリーナ会議室 2 階会議室

出席理事：（敬称略、順不同）

河野博文、中川千鶴子、桑原啓三、中澤信夫、川北達也、坂谷定生、富田三和子、平松隆宮野幹弘、中野佐多子、安田大助、尾形依子、斎藤渉、作田智恵子、橘田佳音利、高間信行、長塚奉司、高橋祐司、中島量敏、大西治夫、森田豊三、黒川重男、磯部君江、岡村勝美、菊池邦仁、新田肇、大島茂樹、中村和哉、宇都光伸

以上 29 名

出席監事：児玉萬平、紙谷雅子

以上 2 名

オブザーバー：安藤淳総務委員長、松田一隆財政委員長、柳澤康信広報委員長、森信和国体委員長、大坪明外洋安全委員長、望月宣武参与/国際委員長、大村雅一事務局長

議事の経過及び結果

（定足数の確認）

理事 32 名中、出席者 29 名により、定款 34 条に基づく定足数を充足しており、本理事会は成立した。

（議長による開会宣言）

定款 33 条に基づいて、河野博文会長が議長となり、2019 年度通常（第 2 回）理事会の開会を宣言し、議事進行を川北達也専務理事に委任した。

（議事録署名人）

本理事会の議事録署名人として、議長指名により、尾形依子、橘田佳音利の両理事が任命された。

河野会長から、パールレースの中止、小笠原レース完了、年末にはパラオレースが行われる。7 月、8 月はレーザー世界選手権をはじめ、多くの国際レースが開催された。470 世界選手権では吉田・吉岡組が 2 位になり、オリンピック代表の内定がニュースになり、多数のメディアに取りあげられた。SWC 江の島大会ではキールボートの方々にドライバー等のお手伝い頂き、とても良い大会になった。その他重要な議題につき、審議いただきたいとの挨拶があった。

〈審議事項〉

1) 2019 年度第 2 次補正予算案

松田委員長から資料に基づき、2019 年度第 2 次補正予算案について説明があった。

第 1 次補正時点予算からの主な変更点として、

1. オリンピック事業強化関連

当初予算策定時点においては、JOC・JSCに一旦提出したすべての強化事業を対象とした希望額で収支を計上していたところ、新年度に入り JOC・JSC から本年度の予算額が別途明示された。これを受け、示された予算額の規模に合わせてあらためて収支ともに金額を見直した結果、収支とも 6,900 万円程度の減額を計上し、補正した。

2. 総務委員会・ガバナンス強化関連

総務委員会関係では、収入・支出ともに 1,119 千円を追加計上した。これは、総務委員会において、当連盟のガバナンス体制構築の一環として、ガバナンス、コンプライアンス、インテグリティ及びセーリング競技における安全面の管理等の研修を 2019 年度中に 2 回実施することに伴い補正である。支出予定の内訳は、研修参加者の旅費・宿泊費負担の他、研修講師 2 名の謝金、研修室利用料である。

3. 管理費・その他関連

収入では、オリンピック準備委員会繰入収入に関し、消費税相当分 670 万円が減少になっているところ、これはもともと予定していたオリンピック準備委員会関連の支出が期づれしたことに伴うものである。支出では、事務所移転費に関し、備品類の調達にあたっての供給業者との交渉を踏まえ減額に成功したことなどから、400 万減となった。

4. 加山雄三プロジェクト推進関連

支出予算に 500 万円を追加計上した。

5. 予備費の計上

当期合計収支差額が 2,118 千円ほどプラスになると見込まれることから、あらたに予備費として 1,000 千円計上した。

この結果、総合計の当期収支差額は 1,023 千円黒字となったとの発言があった。

満場一致で承認された。

2) 第 74 回国民体育大会セーリング競技（茨城国体）感謝状の贈呈

安藤総務委員長から資料に基づき、第 74 回国民体育大会セーリング競技（茨城国体）感謝状の贈呈について説明があった。

9 月 29 日～10 月 3 日まで、茨城県阿見町阿見町霞ヶ浦セーリング特設会場で開催する第 74 回国民体育大会セーリング競技の大会運営協力に対し、霞ヶ浦漁業協同組合阿見町支部、株式会社ラクスマリーナの 2 団体に、国体委員会の推薦に基づき、感謝状を贈呈するとの発言があった。

森国体委員長から、茨城県からは 2 団体のみの要請で、レース海面は阿見町のみであるとの発言があった。

満場一致で承認された。

3) JSAF 定期表彰

安藤総務委員長から資料に基づき、2019 年度 JSAF 定期表彰に関わる受賞候補者推薦依頼について説明があった。

2019 年度 JSAF 定期表彰に係わる受賞候補者推薦書を JSAF 理事・委員長ならびに各加盟・特別加盟団体事務局へ依頼する。なお、候補者提出の締め切りは 2019 年 11 月 15 日（金）、表彰は 2020 年 1 月 25 日（土）開催の全国加盟団体代表者会議において予定しているとの発言があった。

満場一致で承認された。

4) 国際委員会副委員長選任

望月委員長から資料に基づき、2019 年度国際委員会の副委員長及び委員の委嘱について説明があった。

委員会運営ガイダンス第 2 条第 1 項に基づき、理事会で承認いただき、委嘱状を賜りたいとの説明があった。

満場一致で承認された。

5) 特定寄付金の募集にかかる募金目論見書

川北専務理事から資料に基づき、特定寄付金の募集にかかる募金目論見書について説明があった。

「海その愛基金」海洋環境クリーンプロジェクト事業にかかる特定寄付金の募集について、JSAF 寄付金等取扱規程に基づき、募金目論見書により実施したいので承認いただきたい。なお、前回理事会の協議事項としてないが、すでに加山雄三さんのコンサートツアーでの募集が始まっていることもあり、本理事会で審議、承認をいただきたいとの発言があった。

満場一致で承認された。

<協議事項>

1) JSAF 中長期ビジョン

川北専務理事から資料に基づき、JSAF 中長期ビジョン・ゴール（案）策定について提案があった。

中長期第2フェーズとして、2019年6月～9月の間、ビジョン・ゴール案の専門委員会、加盟・特別加盟団体への提示、意見聴取によるブラッシュアップを行った。①JSAF 専門委員会からは12委員会（回答率46%）、加盟団体（県連・外洋団体）からは8団体（回答率13%）、特別加盟団体12団体からの回答があった。9月末までには、実質的な活動を行っている概ねすべての艇種別団体より回答取得予定にしている。また、別紙にて、ビジョン・ゴール案を提示した。引き続き、役員の皆様や加盟する団体のご意見を反映して、次回理事会に提案するとの発言があった。

平松理事から、ビジョンの最終目的は、ヨット人口増加なのか、JSAF 会員数の増加なのか示していただきたいとの質問があった。

川北専務理事から、両方を指すものであると回答があった。

菊地理事から、学連OB、OGの取り込みを模索できないかとの発言があった。

高間理事から、メンバーの定義は「JSAF 会員の中のセーラー」のこののみを指すのか定義の仕方を考えるべきであるとの発言があった。

桑原副会長から、セーリングのファンを増やすにあたって報道方法を考えるのが最善であるとの発言があった。

宮野理事から、e-sailingなどの方法を駆使して、いつでもどこにいてもセーリングを忘れないように工夫することも大事であるとの発言があった。

2) スポーツ団体ガバナンスコード対応を踏まえた JSAF 理事の選任

安藤総務委員長から資料に基づき、スポーツ団体ガバナンスコード対応を踏まえた JSAF 理事（理事会）の在り方、及びその選出方法の検討開始について提案があった。

スポーツ団体ガバナンスコードが求める中央競技団体役員の内訳として、原則は適切な組織運営を確保するための役員等の体制を整備すべきであるとされている。現状の主要課題としては、①女性理事比率、外部理事比率を達成できていない。②外部評議員が存在しない。女性、外部目標比率を策定できていない。③加盟団体に対する指導監督支援体制が構築されていない。今後の対応方針としては、NFにおける適正なガバナンスの確保を図るうえで、理事（理事会）の責務である「組織運営上の重要な意思決定や業務執行に係る権限を有する理事がその権限を適切に行使するとともに、理事会や評議員会において、その権限の行使を適確に監督すること」が実行されていることの検証と、理事等の多様性及び実効性を確保するとともに、新陳代謝を図る仕組み（現行理事候補者選出基準

の見直し)を構築する取り組みを開始する。

また、2020年6月改選役員選挙においては、①現行の理事・監事候補者選出の基本的枠組みを踏襲しつつ、女性理事比率の更なる向上を目指す。②次回役員選挙においては、評議員についても改選期となるため、現行の評議員候補者選出基準を踏襲しつつ、女性評議員比率の向上を目指す。検討体制及びスケジュールについては、検討プロジェクトチームを発足いただき、プロジェクトチームリーダーを馬場副会長に就任いただくとの発言があった。

桑原副会長から、外部役員の定義としては、企業経営者、専門士業など連盟内での見直しが必要であるとの発言があった。

作田理事から、セーリングに直接関係しない人も外部役員とされるのか質問があった。

中川副会長から、女性理事の選任方法について再検討が必要であるとの発言があった。

3) 特別加盟団体（一般社団法人横浜ヨット協会）

安藤総務委員長から資料に基づき、一般社団法人横浜ヨット協会からの提出された特別加盟団体申請について提案があった。

一般社団法人横浜ヨット協会から日本セーリング連盟運営規則第8条1項(1)に基づき特別加盟団体の加盟申請があった。総務委員会において、JSAF 特別加盟団体（クラブなどの団体）として連盟加盟するための条件に該当していることを確認した。

黒川理事から、会員数ゼロの特別加盟団体多く存在するが、ガバナンスの見直しが必要であるとの質問があった。

安藤委員長から、重複会員制度を採用している点であるとの回答があった。

川北専務理事から、次回理事会の審議事項とするとの発言があった。

<報告事項>

1) オリンピックチケット購入について

川北専務理事から、オリンピックチケット購入について報告があった。

JOC ファミリー（参加競技団体）として、一般のチケット抽選とは別に、オリンピックチケットが発券されるシステムにリクエストした配券は誰も当たることがなかった。引続きリクエストしていくが、個人申込（9月10日締め切り）でお願いしたいとの発言があった。

2) 海その愛委員会報告

海その愛基金・環境クリーンプロジェクト推進委員会の川北委員から資料に基づき、委員会報告があった。

①ジュニアユースアカデミー葉山（6月22～23日）を開催し、セーリング講習だけでなくシーマンシップの一つとして、加山氏の環境メッセージを放映、子供達や父兄・コーチたちにも海のプラスチックごみを減らすことを考えてもらう時間を追加した。②富田常務理事が中心となって、神奈川県セーリング課と一緒に、子供たちに海やセーリングの魅力を伝えるために、2時間の訪問授業を実施した。加山氏の環境メッセージ放映、海洋環境保全パネルセッション、ロープワーク、陸上セーリング体験などを行った。秋までに全16校終了予定である。③マリン事業協会が主催するマリンカーニバル豊洲2019（7月6～7日）に、広報、環境、レディース、事務局が横断的にタスクを組み、ランドOPセーリング体験を実施、2日間で約1,000人がブースに来場した。子供たちの笑顔で満載の会場となった。翌週の「海プロ」にも複数の家族が訪れ、セーリングファン開拓につながった。④グリーンルーム代々木公園 OCEAN PEOPLE（7月13～14日）は、バーチャルリアリティにてセーリングと綱渡り（スラッグライン）の体験映像を提供した。環境保全のパネルセッションを行い、きれいな海でできた高級天然塩とカフェラテのレシピ、紙ストローなどを2日間で約1,000名に無料配布し、海洋環境保全を訴求、賛同者を多く得ることができたとの発言があった。

3) 総務委員会報告（会員システム）

安藤総務委員長から、会員管理システム改定について報告があった。

会員管理システムは、2019年7月1日から改定した。当初は不具合があったが、現在は正常に稼働している。また、JSAF ホームページのパスワード更新についても定期的に変更を行い、サイバー攻撃対策をしていくとの発言があった。

4) オリピック準備委員会報告（SWC 他）

桑原オリピック準備副委員長から、オリピック準備委員会の活動報告があった。

①7月12日、レーザーワールド、470ワールド、SWC 江の島大会、オリピックテストイベントの支援していただいたスポンサー対応の激励会を開催した。②テストイベントでは、運営、会場面などの様々なテストを行うことが出来た。フェスティバル関係すべてを江の島ヨットハーバー内の敷地内で行い、観覧船として「帆船みらいへ」を呼んだこと、江ノ電のラッピング車両など使いPRを行ったことが、ヨットのことをあまり知らない方々を多く呼ぶこときっかけになった。また、運営面では、多くの外洋セーラーの方々に支援いただいた。今後、一緒にセーリング会を盛り上げるきっかけになった。半面、危機感の共有が組織委員会と共有できていないことも分かったとの発言があった。

中川副会長から、激励会において、女性選手向けにメイクならびにヘアデザインを行っ

た。女性の選手からはたいへん好評で、男性選手からも羨む声があった。記者会見でのメディア・マスコミ対応ができたとの発言があった。

川北専務理事から橘田理事に意見を求められた。

橘田理事から女性選手向けにメイク・ヘアを行ったことへの感謝と、その効果を喜ぶとともに、実施した選手6名へのアンケートを行い、喜びの声を3選手から受け取った旨の報告があった。今後は女性ばかりでなく、メディア・マスコミに取り上げられる結果を出した男女選手への対応ができれば、という発言があった。

5) オリンピック強化委員会報告

斎藤オリンピック強化委員長より資料に基づき、オリンピック代表候補者の内定、JOC ジュニアオリンピックカップ選定について報告があった。2020年東京オリンピック代表選手の選考結果について、470級女子の吉田愛・吉岡美帆組(ベネッセホールディングス)が、8/2~9江の島で開催された470級世界選手権において第2位に入り、選考要綱5.特別推薦およびボーナス得点の①の規定による特別推薦としてJOCに日本代表として推薦する。また、470級男子の岡田奎樹(トヨタ自動車東日本)・外薮潤平(九州旅客鉄道)組は、選考指定大会であるプリンセスソフィア杯、2019年世界選手権、SWC江の島大会の3大会が終了、通算成績64ポイントを獲得し、日本選手最上位となり、選考要綱の規定に基づき、JOCに日本代表として推薦する。なお、補欠選手については、選考要綱の規定に基づき、470級女子 宇田川真乃・工藤彩乃組(Yamaha Sailing Team Rev's)を補欠選手として認定した。補欠選手は、日本の第2位の選手が2019年または2020年のワールドでオリ出場国枠内に入っている場合に認定することになっている。470級男子は、土居一斗・木村直矢組(アビームコンサルティング)が保留中で回答待ちである。JOC ジュニアオリンピックカップ2020年開催地については、開催地公募の結果、蒲郡、和歌山、鹿児島、江の島の4ヶ所から応募を頂きました。公示により、開催地は選定委員会の総合判断で決定するという事になっていますが、選定委員会で検討した結果、2020年の開催地は和歌山に決定致しました。経緯としては、8月27日に開催された選定委員会で協議致した時点では、さらに情報を収集し検討を続けることになり、その後チャーター艇に関する情報収集や各候補地の情報を整理、評価した結果、参加全艇でもチャーター艇の提供が可能な和歌山にお願いすることになりました。従来、唐津で開催されていた同大会におけるチャーター艇の提供数は、年によっても異なりますが、各クラス10~20艇を用意して頂き、遠隔地からの参加もしやすい体制がとれていました。今回応募の和歌山以外の3ヶ所は、この唐津の艇数に満たない状況であり、高校生レベルの参加のしやすさを考慮し和歌山に決めさせて頂きました。なお、今回の公募は2020年大会の開催地であり、2021年以降については、あらためて来年公募をする予定です。継続開催についてはアンケート的に希望を確認し、和歌山を含めて4ヶ所とも継続開催を希望されています

が、将来の開催地の決め方については来年の公募の際に検討したいとの発言があった。

宇都理事から、落選の内容について詳しく知りたい。鹿児島国体によって外洋南九州と鹿児島県連の活性化されたため今後、是非 JOC ジュニアオリンピックカップを開催したい。セーリングが盛んなところばかりで大きな大会が開催されている。

あまり盛んでないところで開催する方がセーリング界全体を復活できるのではないかと発言があった。菊池理事から、国体などで整備された施設を有効に活用するべきではないかと発言があった。

6) 障がい者セーリング推進委員会活動報告

高間障がい者セーリング推進委員長から資料に基づき、障がい者セーリング推進委員会の活動報告があった。

①5月に行われた全日本ブラインドセーリング選手権の勝者「チーム ALBA」が、9月1日～8日に開催される「ブラインドセーリング世界選手権（カナダ・オンタリオ州・キングストン）」に遠征している。遠征費用が高額のため、クラウドファンディングを立ち上げ、資金調達を行っている。②6月30日～7月7日に開催された「2019 パラワールドスペイン大会（プエルトシェリー）」に、日本からの参加選手の成績は、Hansa303M は7位（丹羽選手）、20位（西野選手）、Hansa303W は8位（曾根選手）、RS Venture は8位（山本選手、有吉選手）であった。③2018 ハンザワールド広島大会で使用した艇の活用については、大会で使用したハンザの JSAF 障がい者セーリング普及・強化推進拠点への配艇は4月までに終了した。今後の活用について、各拠点（東京、大阪、和歌山、広島、大分）へ「2019年度以降の障がい者セーリング普及推進活動計画」の再提出を要請中である。④2021 三重全国障害者スポーツ大会（全スポ）にオープン競技として採用されたヨット種目を、全スポ大会で正式種目へ採用させるためには、5年間継続しオープン競技として行う必要がある。そのためには、三重大会後の、栃木、佐賀、滋賀、青森大会へと継続しなければならず、当委員会として普及推進計画を策定検討中である。⑤2020 パラワールド東京開催は中止となったが、2021年に国際大会を東京で開催することについて話し合いを行いたいとのWSからの申し入れを受け、先にパラワールド開催誘致に意思表示をした3拠点（東京、和歌山、大分）に問合せを行っているとの発言があった。

7) レースマネジメント委員会報告（公認申請等進捗状況一覧他）

高橋理事から資料に基づき、レースマネジメント委員会報告があった。

①前回理事会の承認された委員会名称変更について、レース委員会からレースマネジメント委員会および CRO（クラブレースオフィサー）から LRO（ローカルレースオフィサー

一)について、8月1日にJSAFホームページも変更した。②2019年度JSAF公認申請等進捗状況およびレースオフィサー資格登録数について報告があった。③2019年8月17～22日の6日間、READY STEDY TOKYO-Sailing（東京五輪ヨット競技テストイベント）が開催され、運営、選手、ボランティア、メディアなど東京五輪セーリング競技にかかわる人々が江の島に結集し、46カ国・地域、選手356人規模のレースが行われた。また、2019年8月25日～9月1日の8日間、ヘンペル・ワールドカップシリーズ2020が江の島で開催されテストイベントと同様の規模で五輪10種目に46カ国338艇、世界トップクラスの選手が集まった。レースマネジメント委員会は海上運営として協力したとの発言があった。

8) ルール委員会報告 (IJ/IU 推薦状況)

大村ルール副委員長から、今年はIJ/IUの推薦はないとの報告があった。

9) 普及指導委員会活動状況報告 (海と日本PRJ他)

川北普及指導委員長から資料に基づき、普及指導委員会活動報告があった。

①公認指導者養成講習会 (JSPO 助成事業)は、今年度から共通科目講習会もアクティブラーニングに改定され、JSAFから坂口/川北の両名が講師として参加した。既に10講習中6カ所が終わり、で10月下旬から専門科目がスタートする。②日本財団「海と日本プロジェクト」事業は、子供を中心にした海に関わりの少ない方を対象に、海の楽しさを伝えることを目的に、体験乗船を核とした海遊び、海産物の食事、絵画、写真コンテスト、寄せ書きなどによる思い出作りなどを組み込んだイベントを、全国8か所でイベントを事故なく終了した。③セーリングテーマにレースに出て勝利するまでを描いた劇団山本屋公演の「風を切れ」を後援した。6月26日～7月3日までラゾーナ川崎プラザソルで公演しているとの発言があった。

10) レディース委員会報告

富田レディース委員長から資料に基づき、レディース委員会報告があった。

①チャイルドルームは、大会期間中に乳幼児を帯同して大会に参加する選手や役員・大会関係者や観覧者のために、環境を整えている本年度はすでにレーザー、レーザーラジアルワールド、470ワールド、テストイベント、SWC江の島大会で実施している。今後については、鹿児島国体リハーサル大会、茨城国体、江の島オリンピックウィークで実施する予定である。②2019年11月23日(土)、レディース委員会主催第2回交換会を開催する。昨年開催では女性のセーラー・指導者・運営者の活動に関して、様々な立場で意見をいただき有意義な交換会となった。第2回目の今年度は見えてきた課題に向かって具体的に取り組める内容を、意見交換する中で見出していきたいとの発言があった。

11) 国際委員会報告（パラオへの JICA 海外協力隊派遣）

望月国際委員長から資料に基づき、国際委員会報告があった。

国際委員会では、過去5年間にわたり、SFT（外務省「Sport for Tomorrow」プログラム）を実施してきた。本年12月29日スタートの日本・パラオ親善ヨットレースの一環として、オプティミストディンギーを寄贈、SFT後の継続的な支援が望まれる。パラオ共和国におけるセーリングは黎明期であり、SFT実施後もコーチの派遣など継続的な支援が必要なことから、JICA（独立行政法人国際協力機構）と民間企業・団体（JSAF）との間で派遣に関して合意書を締結する。

派遣までのプロセスについては、まずJSAFとJICA間で合意書を締結、2020年度1次隊（4月派遣予定）であれば、概ね本年11月ごろまでに締結する必要がある。JSAFとしてJICA海外協力隊派遣の方向が出されれば、早急にJICA海外協力隊への具体的な派遣者の推薦をJICAとの協議及び派遣コーチの選任プロセスに入る予定である。また、バミューダで開催予定のWorld Sailing年次総会では次のオリンピック艇種の選定等が行われる予定である。また2週間後にWorld Sailingのガバナンスコードも発表される予定であるとの発言があった。

12) e-Sailing 委員会報告

尾形 e-Sailing 委員長から資料に基づき、e-Sailing 委員会報告があった。

SWC 江の島大会期間中の8月31日～9月1日に開催された「ワールドカップフェスティバル」において、e-Sailing プレゼンテーションを開催した。江の島ヨットハーバー内センタープロムナードでの大型ビジョンで観客向けプレゼンテーションや、メダルレース・ウェットセレモニーの合間にステージ上で「e-Sailing」について紹介した。特設テントブースでは、ワールドセーリング監修の「Virtual Regatta Inshore」のアプリのインストール方法やゲーム遊び方等を説明し、同アプリ内の「Sailing School」を用いて簡単にルールを説明した。2日間で延べ約130名がブースに立ち寄った。e-Sailing のユーザーが、セーリングやセーリング競技に興味を持ちレース会場やセーリングスクールに足を運んでもらえたら、会員増員といった相乗効果も期待できる。今回のイベントでは8社のメディアから取材があったとの発言があった。

望月国際委員長から、バミューダでの大会ではバーチャル vs リアルでの対戦が予定されているとの発言があった。

菊地理事から、小中学生へヨットルールを理解する手段になるとの発言があった。

13) 外洋常任委員会報告（パール・フラッグリレー・NYYC・マイクロプラスチック）

坂谷外洋常任副委員長から資料に基づき、外洋常任委員会報告があった。

台風接近の為、2年連続でパールレースが中止になった。梅雨明けで天候が安定している

時期であるが残念である。来年は沖縄～東海レースを開催予定である。また、2019-2020 日本パラオ親善ヨットレースは、2019 年 12 月 29 日 12 時頃スタート予定で、横浜港内～パラオ共和国イーストパス沖（約 1,700 マイル）までのヨットレース事業、OP 寄贈事業、マイクロプラスチックの採取事業の 3 事業の柱がある。マイクロプラスチックの採取には、伴走艇「みらいへ」とレース艇に Volvo Ocean Race で使用した同一装置を取り付け全行程で採取する予定であるとの発言があった。

菊地理事から資料に基づき、フラッグリレー（東京 2020 応援プログラム）について報告があった。オリンピック応援フラッグは、熱いセーラーたちの思いと共に順調にリレーされ、唐津、小戸、関門海峡を通過して別府、そして宮崎市で九州一周を完了した。また、北海道 1 周フラッグリレーも終了した。その際に、マイクロプラスチック採集調査も実施した。と発言があった。

坂谷外洋常任副委員長マイクロプラスチック採取においては、東京海洋大学と採取デモンストラクションノウハウにかかわる協力関係を明確化していくとの発言があった。

14) 2019 年度メンバー登録数（7 月 31 日現在）

大村事務局長から資料に基づき、JSAF 会員登録数実績について報告があった。2019 年度 7 月 31 日現在のメンバー登録者数は合計 8,684 名であるとの発言があった。

河野会長から大きく会員数が減少した県連などに理由を聞くようにとの発言があった。

15) 2019 年度定時評議員会議事録 案（6 月 15 日）

大村事務局長から資料に基づき、2019 年度定時評議員会議事録（案）について報告があった。

16) 2019 年度通常（第 1 回）理事会議事録 案（6 月 15 日）

大村事務局長から資料に基づき、2019 年度通常（第 1 回）理事会議事録（案）について報告があった。

17) 佐賀県ヨット連盟の補助金不正問題について

川北専務理事から、佐賀県の補助金不正問題について報告があった。

佐賀県ヨット連盟の馬場会長から、正に使用した金額は完済している。佐賀県体協から佐賀県ヨット連盟に対しては、1 年間の活動状況を提出する指示を受け、罰則規定に基づいて「勧告」を受けた。10 月末日で、佐賀県ヨットハーバーは別の指定管理者へ移管、佐賀県ヨット連盟の役員改選ならびに NPO 法人化を検討する。また、佐賀県知事からはセーリング活動をしている選手には前向きな言葉をいただいているとの発言があった。

18) その他

①河野会長から、中島房徳氏の1964年東京五輪写真集作成において、広報委員会内に小委員会を設定して、出版および販売の企画をお願いしたいとの依頼があった。②中村理事から、NTC機能強化を目的にビズリーチダイレクトシステムを利用する契約をした。また、インターハイの終了報告があった。③磯部理事から資料に基づき、2019年レーザー級世界選手権大会の報告ならびに御礼があった。④大村事務局長から資料に基づき、海上保安庁交通部安全対策課からディングー海難発生状況とインターハイでの海難事故について検討事項について報告があった。⑤大村事務局長から資料に基づき、J24協会会長の変更交代について報告があった。⑥大村事務局長から資料に基づき、日本オープンビッククラス協会から日本オープンスキフクラス協会に団体名称変更があったと報告があった。⑦大村事務局長から資料に基づき、横浜フローティングボートショー開催及びワールドマスターズゲームズ2021関西の進捗状況について報告があった。⑧大村事務局長から、6月20日に新会館への事務局移転が終了、9月にはオリンピックミュージアムがオープンする。また、次回理事会は11月30日(土)に開催予定であるとの報告があった。

2019年度通常(第2回)理事会は、上記の通り議決ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

2019年 9月 7日

議 長	会 長	河 野 博 文
議事録署名人	理 事	橘 田 佳音利
議事録署名人	理 事	尾 形 依 子
	副 会 長	桑 原 啓 三
	副 会 長	中 川 千鶴子
	副 会 長	中 澤 信 夫
	専 務 理 事	川 北 達 也

常務理事 坂谷 定生

常務理事 富田 三和子

監 事 児玉 萬平

監 事 紙谷 雅子